

山口宇部 医療センター だより



玄関前の桜の木がうっすらと雪化粧しました。

理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。



独立行政法人 国立病院機構

山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241

山口県宇部市東岐波685番地

TEL.0836-58-2300(代)

FAX.0836-58-5219



<http://www.yamaguchi-hosp.jp/>



2023年 年頭のあいさつ

山口宇部医療センター（山口がん・呼吸センター）

院長 亀井 治人



謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして本年が良き年となりますことを心より祈念申し上げます。

山口宇部医療センター職員一同は、心新たにしながらも、これまでと変わりなく、地域の皆様の期待にお応えできる診療を目指してまいりたいと考えておりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」の流行は、2022年末までの3年という時間を経ても終息するには至らず、現在、流行の第8波を迎えております。しかも、今冬期には久しぶりにインフルエンザも流行する可能性があるかと懸念されており、今なお各個人の感染対策への心がけが大切な世情となっております。

山口宇部医療センターは、山口県のCOVID-19対策において流行の初期段階から重要な役割を担い、そして現在に至るまで一貫してその重責を果たして参りました。その一方で、呼吸器領域・悪性疾患領域における高度な診療、良質な緩和医療、そして重症心身障害児・者の療育という当院の本来の診療機能につきましても、感染対策を徹底し、COVID-19流行下にあっても機能不全に陥ることなく、平時と同等の機能を維持して参りました。これは当院の努力だけではなく、山口宇部医療センターをご利用頂きました皆様のご理解とご協力があったることと、施設を預かるものとして心より感謝いたしております。

本邦では、COVID-19の克服に向けてワクチン接種の広まり、様々な治療法の開発といった好要素もありますが、他方ではワクチンの効果を回避する変異株の出現、社会の意識変化にともなう感染機会の増大といった懸念要素もあり、アフター・コロナに向けての道筋は今なお予断を許さぬ状況にあります。

そのような中で、社会全体で見ますと、COVID-19の重症化率は明らかに低減しており、社会活動は一気にウィズ・コロナに向けて加速しつつあります。

しかし、新型コロナウイルスの感染力にはいささかも衰えが認められておらず、感染に伴う重症化、重篤化のハイリスク者の命を預かる医療・介護界におきましては、依然としてゼロ・コロナ対策で臨むことが求められております。皆様におかれましては、当施設の利用に際してお願いする様々な対応や制限について、一般社会との感覚とのずれが大きいことに違和感を覚えられることもあろうかと思いますが、私たちはこのような「摂生（節制）」もまた医療に関わるもの皆に求められている責務とわきまえ、難局に立ち向かってゆく所存ですので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

山口宇部医療センターは、これからも国立病院機構グループの一員として、地域の方々へ安定した医療の提供を保證するという責務を果たしてゆく所存です。繰り返しとなりますが、当院をご利用頂く皆様には、今暫くの間、これまでに引き続きましてマスクの着用や手指衛生の徹底、入館、面会の制限などなど、病院の感染制御において不可欠となる数多くの対策へのご協力をお願い申し上げることになろうかと思っております。しかし、病院と皆様が一丸となっはじめて安寧な医療の継続が実現されます。ご不自由をおかけいたしておりますが、COVID-19を克服して我々が平時の生活を取り戻すことができる日まで、今後ともご協力、ご支援を心よりお願い申し上げます。

2023年（令和5年）1月吉日



肺がんの専門的治療や 治験について

内科系診療部長 青江 啓介

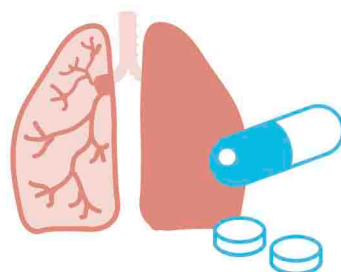
2018年ノーベル生理学・医学賞を宇部市出身の本庶佑先生が受賞しました。受賞の理由は、PD-1を阻害するがん免疫療法を開発したことでした。同年、共同受賞したジェームズ・P・アリソン先生は、CTLA-4を阻害するがん免疫療法を開発しました。本庶先生の「PD-1」もアリソン先生の「CTLA-4」も「免疫チェックポイント」と呼ばれるたんぱく質で、がん細胞や免疫細胞の表面に現れるとがん免疫を抑えるというしくみでがん細胞の生き残りに関わっています。このたんぱく質を抗体で抑え込むことを「免疫チェックポイント阻害薬」といいます。免疫チェックポイント阻害薬を用いて治療すると、今までがん免疫から逃れていたがん細胞が自分の免疫から逃れることができなくなり、腫瘍は縮小していきます。そればかりか一度がん免疫が作動すると治療そのものを中止しても、免疫機能が持続してがんの増殖を抑えることもあることがわかってきました。最初は「悪性黒色腫」という皮膚のがんから治療が行われ始めましたが、その後、肺がん、大腸がんなどさまざまながんの治療で有効性が示され、幅広く臨床の現場で使用されています。

しかし、新しい治療法がいきなり幅広く臨床現場で使用されるわけではありません。新しい治療法が厚生労働省に認められ幅広く臨床現場で用いられるようになるためには、「治験」という臨床試験が行われ、新しい治療法の有効性を確認しなければなりません。まず、いくら動物実験でよい結果が出て、ひとに安全に投与できるのか、副作用にどのようなものがあるのか確かめる必要があります。安全が確認できれば、どのようながんのひとに効果があるのか。それは今までの標準治療よりも治療効果が高いのかを確認する必要があります。どんなによいと思われる治療法でも「治験」を行わなければ、厚生労働省で認めてもらえません。十数年前までは、海外では使用されているのに、日本国内で「治験」が進まないために日本国内で使用できない「ドラッグ・ラグ」という問題がありました。新しい治療法がなるべく早く国内で使用できるようになるためには、積極的に「治験」に参加する医療機関が必要です。みなさんがご存知の国立がん研究センターはそのような医療機関の大元締めのようなセンターですが、その施設だけで「治験」を行うとずいぶん時間がかってしまいます。より多くの専門医療機関が「治験」

に参加することで、より早く国内で新しい治療法を用いた治療が可能となります。わたしたち山口宇部医療センターは「肺がん」については、専門医療機関として自負しているところであり、「肺がん」に対する新しい治療法が少しでも早く患者さんに届けられるように「治験」に積極的に参加してまいりました。先ほどお話しした「免疫チェックポイント阻害薬」の治験にも参加し、現在、標準的治療となっている治療法を他の病院にさきがけて用いてきました。治験に参加することでより早く新しい治療法に習熟するとともに、副作用対策にも早くから取り組むことができ、より安全に患者さんに治療法を提供できるようになるメリットがあると考えています。

現在、肺がんの薬物療法には、以前からある抗がん剤「殺細胞性抗がん剤」とがん増殖に関わる分子を狙い撃ちする「分子標的治療薬」、それと「免疫チェックポイント阻害薬」があります。全身状態、病気の広がりを確認したら、がん細胞に「分子標的治療薬」が使用できるような遺伝子異常（バイオマーカーと呼ぶこともあります）がないかどうか確認し、さらにはがん細胞に「PD-1」が現れていないかどうか確認して、「免疫チェックポイント阻害薬」や「殺細胞性抗がん剤」を組み合わせ治療を行います。ここ数年でたくさんの新しい治療法が開発されました。また、免疫チェックポイント阻害薬に特異的な副作用の事を「免疫関連有害事象」と呼びます。頻度はおおむね低いのですが、関連する臓器は全身にわたり、時には複数の専門科が集中的に関わる必要があります。必要な場合は、大学病院などとも連携して治療に当たります。

わたしたち山口宇部医療センターは、肺がんに対する専門的治療を行うとともに、新しい治療法が少しでも早く皆さんに届けられるように、これからも病院をあげて取り組んでまいります。



放射線科

放射線科医長 田口 耕太郎

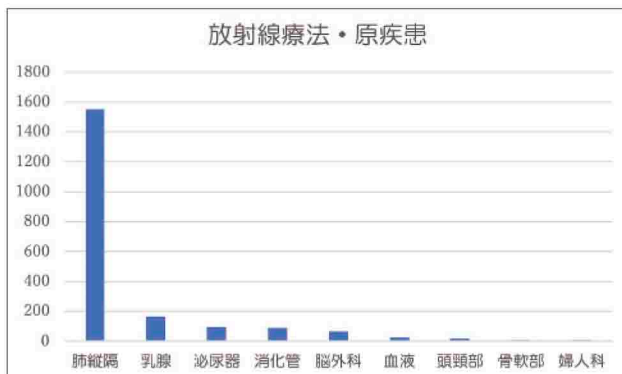
放射線療法

そもそも放射線療法とは、**悪性腫瘍・がんに対する治療法のひとつ**。悪性腫瘍・がんに対する治療法は**①手術療法(外科切除)**、**②放射線療法**、**③化学療法(抗がん剤)**、**④免疫療法(オプジーボなど免疫チェックポイント阻害剤)**があります。

がんの治療は、この4つの治療法を組み合わせでおこなうことが大切であり、当院では、これらの治療を提供できる体制を整えています。

当院の放射線療法

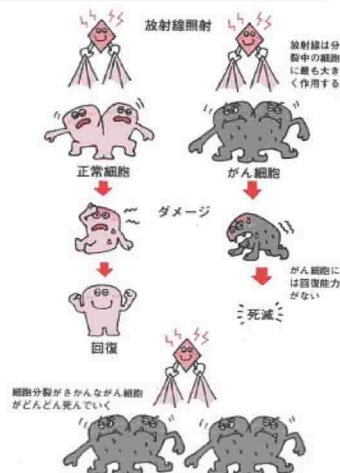
当院は呼吸器疾患に特化した病院であり、図①のように約75%が肺・縦郭疾患に対する放射線療法を施行しています。ですが、当院ですべての治療を完結できない悪性腫瘍・がんに対しても近隣病院さま・医院さま・クリニックさまなどと連携させていただき、放射線療法(年平均200例)を施行させていただいております。



図① 2011年8月-2020年12月まで 2026症例(年平均200例)

放射線療法はなぜ“がん”に効果があるのか?

1. 細胞分裂しているタイミングで放射線はDNA(遺伝情報)にダメージを与える。
2. がん細胞は活発に増殖しており、細胞分裂をしている割合が高いので、がん細胞は正常細胞と比べて放射線で致命的なダメージを受ける割合が高くなる。



図② 「放射線療法はがん細胞と正常細胞の放射線に対する反応の違いを利用している」

放射線治療機器を更新しました

当院では、この度、放射線治療装置「Elekta社製 Infinity」図③を導入し、2023年(令和5年)2月より臨床開始となりました。今回更新した装置により、高度ながんの放射線療法が可能になり、かつ治療時間も短縮できるため、患者さんの負担軽減につながります。

放射線療法において、放射線を体内の腫瘍に正確に照射することは非常に重要です。治療の照射精度を保つため、体表面光学式トラッキングシステム(Catalyst)図④、2D X線撮影機能、kV CBCT(従来より低線量)などを照合装置として用い、毎日のセットアップや治療している間の体動を監視し、確実に照射されていることを確認しながら、日々の照射を行う予定です。

また、体表面光学式トラッキングシステム(Catalyst)を使用して、呼吸によって変化する胸壁や腹壁の動きを検出しながら、呼吸によって動く腫瘍に対してより正確に照射を行うことができます。このように、3次元あるいは呼吸を加味した4次元的な照合でより正確に腫瘍を照射することできるようになることで、照射範囲を小さくし、正常組織への障害をより少なくすることを試みます。



図③ 放射線治療装置 リニアック(Elekta社製 Infinity)



図④ 体表面光学式トラッキングシステム(Catalyst)

当院の外来(専門科)の受診、もしくはかかりつけ医からの紹介予約が必要となりますので ご了承ください。

■お問合せ
放射線治療および装置についておよび放射線治療受付について

【地域医療連携室】

TEL 0836-58-4100 / FAX 0836-58-2938

集中治療科医療機器室

臨床工学技士長 辛島 隆司

臨床工学技士は医療機器の専門医療職です。病院内で、医師・看護師や各種の医療技術者とチームを組んで生命維持装置の操作などを担当しています。当院では、部署は集中治療科医療機器室に4名の臨床工学技士が配置されており、大きく分けて以下の業務を行っています。

1. 医療機器管理業務

現在、医療機器室では1,608台の医療機器を管理しています。当院は呼吸器の専門病院ですので、人工呼吸器や点滴時に使用する輸液ポンプやシリンジポンプなど、医療機器が何時でも安心して使用できるように保守・点検を行って貸出できるようにしています。



貸出窓口写真（ATMのように貸出手続きをして機器を持ち出します）

2. 臨床業務

主に人工呼吸器の操作や呼吸回路の交換、使用中の不具合対応、在宅人工呼吸器の患者指導等を行っています。当院では特殊な人工呼吸器があり、無気肺の治療、痰が出にくい患者さんの排痰を促す機器の操作も行っていきます。また、腹水濾過濃縮や手術室で麻酔医の補助、鏡視下手術のカメラオペレーターとしても従事しています。



特殊な人工呼吸器（呼吸器の専門病院ならではの機器です）



医療機器室貸出コーナー写真（人工呼吸器が多めです）



麻酔補助業務写真
（医師の負担軽減のために最近業務が拡大されました）

地域医療連携室



地域医療連携係長（看護師長） 宮里 亜紀子

地域医療連携室は田中統括診療部長（地域医療連携室長）のもと、経営企画室長（地域医療連携室長補佐）、看護師長1名（地域医療連携係長）、MSW2名、入院時支援看護師1名、入退院支援看護師2名、事務2名で業務を行っています。

地域医療連携室は、患者さんや地域の方々と当センターを繋ぐ窓口の役割を持ち、効率的で満足の良い医療サービスの提供や当センターからの情報を発信することで、当センターをよりよく知ってもらい、ご利用していただくことを目的としています。

【診療連携】

地域の医療機関から、当院に患者さんを紹介していただく窓口として診療予約を受け付けています。また、当院からかかりつけの医療機関への逆紹介、紹介元および紹介先医療機関への情報管理を行っています。

【入退院支援】

入院前支援として、入院時支援看護師が予定入院の患者さんに外来で入院までの流れの説明や情報の聞き取りを行っています。入院時支援看護師より病棟スタッフ、入退院支援看護師と情報を共有しアセスメントすることで、継続看護に繋がっています。入退院支援看護師は入院初期より患者さんへの介入を行い、多職種カンファレンスでの情報共有を行い退院支援を行っています。患者さん、ご家族の思いに寄り

添い、医療機関や施設への転院調整や在宅療養に向けての社会資源の活用や在宅医への依頼などを調整しています。

また、入退院支援看護師が介入した患者さまに関して、外来看護師とカンファレンスを行い情報共有することで、切れ目のない支援を行っています。

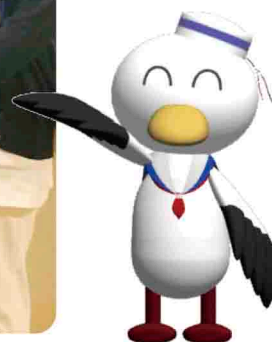
【相談窓口】

入院相談や受診調整、他院への紹介、セカンドオピニオンについて、福祉制度の利用や各種保険、介護保険についてなどの患者相談窓口としての、患者さんにご家族が安心して相談できるように配慮しながら行っています。また、相談内容は多岐にわたるため、それぞれの専門性を生かし多職種で連携を図りながら相談支援を行っています。

【広報活動】

毎年、医療機関を訪問し情報提供を行い顔の見える地域医療連携室を目指しています。コロナ禍においても、状況をみながら訪問は続けさせていただいています。また、4回/年の広報誌の送付を行っています。

患者さんご家族が安心して当院をご利用頂ける様に、切れ目のない支援を行う様心がけてまいりますので、よろしくお願いいたします。



きらら病棟
冬行事

演劇ブレームンの音楽隊

～きららオリジナルバージョン～



療育指導室 保育士 中村 琴美

令和4年12月7日(水)にきらら病棟では冬の行事「演劇ブレームンの音楽隊」を行いました。名作「ブレームンの音楽隊」をベースに、少し物語の内容を変え、歌あり、ダンスあり、笑いありの演劇です。

きらら病棟の皆さんには登場するイヌ役、ネコ役、ニワトリ役、盗賊を追い払う役の4つの役のどれか一つの役になって、職員扮する動物と一緒に演じて頂きました。

最初に登場したのはロバ。ロバは歳をとってしまい家を追い出されてしまいます。そして、ボールが大好きなイヌに会います。ロバに仲間にいてもらうため、イヌ役の方々にはイヌが得意とするボール回しを今年流行った曲『♪The Fox』に合わせてボールをパスし合ってもらいました！きらら病棟のイヌ役の皆さんは元気なイヌを表現されていました。

次にロバたちが会ったのは足が痛くて走れなくなったネコ。ネコもロバたちの仲間になろうと得意のダンスを披露します。ネコ役の方には『♪どらねこロックンロール』に合わせて素敵なダンスを踊って頂きました。賑やかな音楽で会場がワッと盛り上がりました。

最後に出会ったのは「コケッココー」が言えないニワトリ。ニワトリは得意な歌でロバたちの仲間に入ろうとします。ニワトリ役の方は『♪ゆき』に合わせて歌って頂きました。

そしてロバ、イヌ、ネコ、ニワトリは仲間になり、盗賊の家を見つけ、盗賊を追い払うことを決めます。そ

のお手伝いをしてくださったのが盗賊を追い払う役の方々です。大きな元気玉(ビーチボール)に元気を集めて、盗賊へ投げ、無事盗賊を追い払うことができました。

演劇をみて笑顔になる方、音楽を聴いて声を出される方、楽しそうに役を演じられる方、と皆さん楽しまれている様子でした。みんなで作り上げた劇は冬の寒さを忘れるような、パワフルで賑やかなものとなりました。



病院見学会のご案内

国立病院機構 山口宇部医療センター

当院で働きたい方、興味のある方、見学してみませんか!!



- 日程 / 3/25(土)・3/30(木)・5/13(土)・6/3(土)
- 時間 / 10:00～12:00
- 定員 / 10名程度

※見学希望日の2週間前(土・日、祝日等を除く)までに予約をお願いします。

※状況に合わせて実施します。

- 内容 / 病院・看護部の概要説明、病棟紹介
先輩看護師への質問コーナー

〈病院見学会のお申し込みは、下記までご連絡ください〉

国立病院機構 山口宇部医療センター ☎ 0836-58-2300(代)

副看護部長(上野) ✉ ueno.mitsue.nk@mail.hosp.go.jp

待ってます!



外来診療担当医表

令和5年1月13日 現在

診療科	概要	月	火	水	木	金
内科新患外来		青江 啓介	前田 忠士 山本 佑 兼定 晴香	松森 耕介 兼定 晴香	米澤 恒成 兼定 晴香	角川 智之 渡邊 倫哉
内科紹介外来			亀井 治人	亀井 治人		亀井 治人
内科			石田 浩一			石田 浩一
呼吸器内科		坂本 健次 伊藤 光佑 村川 慶多 兼定 晴香	恐田 尚幸 原田 美沙	恐田 尚幸 末竹 諒 藤井 哲哉 上原 翔	伊藤 光佑 深津 愛祐美 水津 純輝 藤井 哲哉	村川 慶多 原田 美沙 上原 翔 兼定 晴香
腫瘍内科	抗がん剤治療 肺がん等	前田 忠士 近森 研一	青江 啓介 宇都宮 利彰	近森 研一	前田 忠士 宇都宮 利彰	青江 啓介
画像診断科	画像診断等		松本 常男			松本 常男
呼吸器外科新患外来		井野川 英利		沖田 理貴	岡田 真典	
呼吸器外科・外科	肺がん	沖田 理貴 岡田 真典		井野川 英利 岡田 真典	井野川 英利 沖田 理貴	
乳腺・消化器外科	胃がん・ 大腸がん等	平澤 克敏		平澤 克敏 (午前中のみ)		平澤 克敏 (手術で不在の場合あり)
緩和ケア内科	※完全予約制	竹内 愛	小笠原 啓子		竹内 愛	
放射線科	画像診断・ 放射線治療等	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎
小児科	障害児外来 ※紹介予約患者のみ 診察			奥田 裕美		沖野 文子
精神・神経内科	てんかん等	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘

※下記診療科は入院患者のみ診療

消化器内科	内視鏡等 ※午前中のみ				松本 俊彦	
整形外科	リウマチ・骨粗鬆症等 ※午前中のみ					藤本 和弘
歯科	※午後13時～		野田 健人	原田 彩		
耳鼻いんこう科	※午後13時～			沖中 洋介 (1・3・5週目) 竹本洋介 (2・4週目)		
神経内科	※午後13時～			根来 滉		
皮膚科	※午後14時～				杉本 紘子	
循環器内科		尾崎 功治 (9時～13時)			藤田 美穂 (13時～17時)	中田 祐樹 (9時～13時)

① 外来受付時間: 午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間: 午前8時45分～】

※内科新患外来: 午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来: 午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CT及び核医学(シンチグラム)の外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで

地域医療連携室

受付時間 / 毎週月～金曜日まで 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938

